

インドネシア雑感記 : 希多 いくと

Vol. 26 2007. 1. 15

インドネシアの自然、土地、食べ物、生活、社会などを、エッセイ風の雑感記として、メルマガにて紹介します。当国の理解に役立てれば幸いです。
配信は五十日（5/10/15/20/25/30日）の予定です。

皆さん、こんばんは。

今日は《土地編 Land 8》、プロモ山のお話です。

■ 26 聖なるプロモ山の御来光はいつ拝めるか

プロモ Bromo は聖なる山です。東ジャワにあり、観光地バリからはジョグジャカルタと並ぶツアコースとなっています。

聖なる山は広いインドネシアにたくさんありますが、ここプロモが総本山的な存在ですね。

プロモ山はスラバヤの南南東約90 kmに位置し、高速道路のある現在では2時間半ほどのアクセスです。

スラバヤからは日帰りも可能ですが、聖なる山には「朝日を拝む」のが付き物ですから、近くの村に泊まることになるでしょう。

宿泊施設へは東北方のプロボリングからと、西北方のパスルアンからの二つのコースがあります。

ぼくが家族と行ったのは後者のコースで、事前にトサリにあるロッジのお湯付き部屋を予約しました。

豪華ホテルとはいきませんが、まあまあのお宿でした。

いつもは水を浴びるべくでも、高地ではお湯がないとマンディができません。それほど空気は涼しく、プロモの夜は冷え込みます。

翌日の早朝に乗る四輪駆動車を、夜の内に手配しておきます。カルデラに広がる砂地を楽に走行するためです。

さらには、人一倍寒さに強いようですが、勧められるままに半信半疑で厚手のジャンパーも予約しました。

翌朝は3時過ぎに起き、眠気の中で出かける準備です。

出発は暗がりの早朝4時。さすがにかなり冷え込んでいます。温度計がないのでわかりませんが、おそらく15～16位でしょうか。

寒暖の感覚は相対的な温度差のため、昼の暑さになれている分とても寒く感じます。ロビーで予約の厚いジャンパーを着込みました。

さあ出発です。4人でショートの子ープに乗り込みます。

暗がりの中40分ほどで朝日を拝める外輪山のピーク(2,775m)に着きました。

ここはカルデラ内のプロモより450mほど高く、気温は10前後でしょうか。いやはや寒いこと、この国で初めての感覚です。

さらに、辺りは霧の中で、霧雨みたいに感じます。30分ほどで御来光のはずでしたが、この霧は1時間経ってもついに晴れませんでした。

天気が良い時のプロモ外輪山からのアングルは、インドネシアを最も代表する「絵はがき用の眺望」なのです。

プロモの広いカルデラに突き出た中央火口丘と旧火口丘、そして遠くに噴煙を上げてそびえる富士山そっくりのスメル山。この構図は、ほとんどのガイドブックに載っています。

残念ながら、この目でじかに見ることはできませんでした。

気を取り直して、外輪山の急斜面をジープが駆け下り、直径約9.5kmの広いカルデラの砂地を疾走します。

ほどなく、カルデラのほぼ中央にあるプロモの現火口丘の麓に着きました。

車から降りると、乗馬の勧誘がかなりあります。麓から先の階段のある所まで、馬に乗っていただけるのです。

乗馬は「後で」と断り、なだらかな起伏を歩きます。最後は急斜面で、山腹に設置された高さ5 - 60 mほどの階段を上り、深い噴火口を臨む「すり鉢」の縁に立ちました。

「すり鉢」の縁はグルッと一回りできますが、人がやっとすれ違えるほどの狭さです。両側の斜面はそれぞれ、外側に約40度、内側の火口には50度以上の急崖となっています。

この縁を一周するのは高所恐怖症の人でしたらちょっとためらうような、そんな所ですが、それでもかなりの人が散策を楽しんでいます。この日は結局曇っており、朝日を拝むのはお預けです。

カルデラ内の平坦な砂地に戻り、子供たちは乗馬を楽しみました。

彼らはもちろん初めての体験ですが、手綱を引かれた早足の馬にさっそうと、そして楽しそうに乗っていました。

再度ジープに乗り込み、ロッジに戻ったのは8時半頃です。宿泊客の誰もがそれから遅い朝食となりました。

起きてから5時間以上経っているので、「それでは動けない」という人は前日に自分でパンなどを用意しておいた方が良いでしょう。ただし、ロッジに売店はありません。

この時プロモ山には、子供の夏休みを利用して8月に行きました。

ロッジの人によると、

「この時期はもう天候が不順で、朝日はなかなか拝めない」そうです。

それでは一体いつが良いのか、と聞くと、

「乾季の初め（特に5月頃）は天候が安定し、御来光やスメル山を望める」とのことでした。

=====

インドネシア雑感記

発行システム：『まぐまぐ!』 <http://www.mag2.com/>

配信中止はこちら <http://www.mag2.com/m/0000207699.html>

=====

インドネシア語入門講座 配信中

カテゴリ：語学・資格 その他の外国語 その他

配信：毎週金曜日

発行者ホームページ

<http://www.baronjp.com/>

=====

インドネシア雑感記 : 希多 いくと

Vol. 27 2007. 1. 20

インドネシアの自然、土地、食べ物、生活、社会などを、エッセイ風の雑感記として、メルマガにて紹介します。当国の理解に役立てれば幸いです。
配信は五十日（5/10/15/20/25/30日）の予定です。

皆さん、こんばんは。

今日は《生活編 Life 3》、お米の炊き方のお話です。

■ 27 ジャングルにてパサパサ米の炊き方を知る

カリマンタンのジャングルでの生活を、ちょっと振り返ってみようと思いません。

現地で借り上げた最初の宿舎は、高床式のぼろぼろの粗末な家でした。

家具は何もなかったように記憶していますが、手作り風のベッドがありました。いや、とてもベッドと言える代物ではありません。とにかく板だけの造りものなのです。

現地へ出張の時は、綿入りの簡易ベッド（丸められる堅めのマットレス）そして小さな「かや」を抱えて、早朝のモーターボートに乗り込みました。

その使い方がやっと現地で納得できたのです。

今の子供たちは、蚊帳（かや）というものを知りません。文明が発達したおかげでしょうか。

ぼくが小学生の頃は、夏の寝床の蚊帳吊りが毎日の日課でした。蚊帳を吊った後は、パタパタと蚊帳の裾を揺らして蚊を追い払い、サッとその中に入った

ものです。

ましてや蚊が中に入ろうものなら、薄暗く見づらい蚊帳の中で目を皿のようにしてにつつき蚊を追いかけたものです。

いつ頃蚊帳が無くなったか定かではありませんが、ぼくの夏の風物詩は一つずつ消えていったようです。

ところで、現地に持ち込んだ蚊帳は、緑色の大きく重い綿製（昭和30年代の日本のもの）とは違い、一人用で小さく軽いピンク色のものでした。

これは中が明るく、迷い込んだ蚊を見つけやすい便利物で、蚊から身を守ってくれました。

そう言えば、借りたての宿舎にはもちろん電気はなく、ランプ生活でした。

しばらくして発動機が入り、うるさいエンジンの音を聞きながらでも、消灯時間まで明るい生活ができることを喜んだものです。

ここで現地での飯の炊き方を紹介しましょう。

炊事担当は現地雇いの男で、一度どのように飯を炊くのか休みの日に見ていました。

鍋の中に研いだ米と水を入れ、たぶん薪を燃やすコンロにその鍋をかける所まではふつうです。

それからです。鍋が沸騰してくると、何度もふたを取って中を覗くのです。米の炊き具合を見ているのでしょうか。

それだけでも驚きですが、更に何をするか眺めていると、炊いている米を網のようなものですくい始めるではありませんか。これにはビックリしました。

「なぜふたを取るのか」と聞きたくても、まだ言葉も満足に覚えていません。

炊事係は何も気にせず、黙々とそれを繰り返すだけです。

「赤子泣いてもふた取るな」という飯の炊き方は日本独特の方法で、ここでは全く通用しないようです。

後でこの炊き方を考え、ある結論に達しました。

それは、「ふたを開け、かつ米をすくうことで、水分の少ないパサパサ飯が炊

ける」ということ。

そして、「この特有の炊き方によるパサパサ飯が長持ちする」ということです。

例えば、ここで日本式にベタベタ飯を炊いたら、半日もしないうちに腐ってしまうに違いありません。

すなわち、パサパサ飯を作るのがこの国では合理的な炊き方なのではないか、と考えるに至ったのです。

もちろん、素材としてのお米（インディカ米）が粘り気の少ない品種ということもあるでしょう。

そして、一般の家庭では炊飯器も急速に普及しています。炊飯器で炊いたご飯は、インディカ米といえども炊きたてはそれほどパサパサしてはいません。

ジャングルという環境で、冷蔵庫など夢のような地域では、保存もままなりません。

「ふた取りすくい炊き」の技は、水分の少ない長持ちするご飯を炊くための、熱帯辺地特有の生活の知恵なのでしょう。

さて、次の現場の宿舎は最初と同様のものでしたが、3回目の現場の宿舎は当初から建造することを計画しました。

その新築木造簡易宿舎ができあがった頃に入ると、ジャングル内とはいえ最初の時より数段住み心地は良好でした。

もちろん、現地での生活はエアコンとはまったく無縁の世界です。昼の猛暑にはかなり参りましたが、慣れると夜は結構過ごし易く感じられるから不思議です。

寝る時にはサロン（バティック＝ジャワ更紗を筒状にしたもの）に包まり、翌日のためにぐっすり眠りました。

人間、どんな辺鄙な所でも生活できるもんですよ。ただ、期間が限られた状況での話で、長期間となるとかなり退屈するでしょう。

=====

インドネシア雑感記

発行システム：『まぐまぐ!』 <http://www.mag2.com/>

配信中止はこちら <http://www.mag2.com/m/0000207699.html>

=====

インドネシア語入門講座 配信中

カテゴリ：語学・資格 その他の外国語 その他

配信：毎週金曜日

発行者ホームページ

<http://www.baronjp.com/>

=====

インドネシア雑感記 : 希多 いくと

Vol. 28 2007.1.26

インドネシアの自然、土地、食べ物、生活、社会などを、エッセイ風の雑感記として、メルマガにて紹介します。当国の理解に役立てれば幸いです。
配信は毎週金曜日に変更しました。

皆さん、こんばんは。

今日は《食べ物編 Food 9》、ジャングルでの食べ物のお話です。

■ 28 ジャングルでの貴重なタンパク源とは

これも東カリマンタンのジャングルで仕事をした時のことです。

州都サマリダからスピードボートで1～2日、大河マハカムの支流を遡った時の話になります。

この奥地では、めったに口にできない物を食することができました。その中でも一番は、何と言ってもニシキヘビでしょう。

こう言うと、動物愛護団体の方々からは眉をしかめられそうですが、何分辺鄙な場所での偶然の食事なのでお許しいたきたい。

捕らえられた時は長さ3m以上もある大物だったそうです。ぼくがそれを見たのは、すでに長さ40cmほどに刻まれた円筒状の肉塊でした。

その塊は太さが15cm位ありましたが、バケツの中では大蛇という実感がわきません。

そのしばらく後、例の蛇を食べるかと言われたぼくは、もちろん食べると答

えたのです。

そう簡単にありつける代物ではないという、怖いもの見たさのような感覚で返事をしました。

皿に載せられて出てきたニシキヘビは、さらに小さく刻まれ唐揚げになっていました。

味はあまり覚えていませんが、鶏肉くらいの感じだったと思います。肉は結構硬いので、これはうまいと次々に食べれるものではなかったですね。

この先大蛇肉を食べる機会はないだろうと、肉の硬さを味わい、良く噛んでから飲み込みました。4切れほど食べて、あごが疲れたのを覚えています。

次は、これもジャングルで捕れた野生の子鹿です。

この子ジカはややしばらく宿舎の脇で飼われていたので、実はいつ食べたかあまり覚えていません。「あれ、あの鹿どうした？」と聞いたら、「昨日食べたよ」というような感じだったのです。

それで鹿肉の味を良く覚えていないのですが、まずくなかったように、いやおいしかったように思うのです。

以前、北海道で食したこともあるのですが、余り印象に残っていないというのが本音です。

とびきり美味かったとか、とてもまずくて食べなかったとか、そういう強烈な印象を与えないのがおそらく鹿肉なのでしょう。

ジャングルには、バビ・フータンという野豚が結構います。バビ Babi は豚、フータンは森を意味します。

ボルネオに今でも生息するオラウータンとは、オラン・フータン Orang hutan がなまったものです。

オランが人を意味するので、オラン・フータンとは「森の人」という意味になります。

「森の豚」は野生ですから、イノシシに近いのでしょう。

イノシシは日本各地でぼたん鍋として知られる食材ですが、残念ながらまだ食べたことがありません。

ここでもイスラム教が豚を食べることを禁じていますから、当然ですがバビ・フータンは食卓には上りませんでした。ウーン残念！

また、このジャングルには、鼻の長いサルなど何種類かのサルがいます。しかし、これを食べるといふ話は聞いていません。

最後に、川に生息するお魚の話です。

今まで話してきたような蛇や鹿など、ふつうの住人はまず食べません。ボルネオの奥地では「川魚」が重要かつ唯一に近いタンパク源になるのです。

ジャングルでは「川」が人間の生活の場であり、当然洗濯・水浴びから排泄までをこの川で行います。

すると、人間が川にポチャンと落とした排泄物は、洗濯物の脇を流れたり、水浴びの手桶に紛れ込んだりする可能性が大きいわけですね。

しかし、現実にはそうならないのが自然の摩訶不思議。

どうしてかと言うと、川ポチャの例のものは、たちどころに川魚のえさに早替わりします。池の鯉にえさを上げると、水しづきを上げるほど群がりますね。あれと同じです。

アツという間に川魚たちの胃の中に消えてしまいますから、意外ですが川は自然の洗浄の恩恵を受けているのです（ただし大だけですよ）。

その川魚たちは重要なタンパク源ですから、二日に一度くらいは唐揚げとして食卓に上ることになります。

とても美味しい小魚ですが、内臓も取り出せないほど薄っぺらなので、例のものがちょっと気になりますね。

しばらく水槽に飼ってフンを出させるともならないようです。

まあ、世の中何でも循環して食べ物になるということなのでしょう。

【後記】

それにしても、納豆異変はあっという間に終息しましたね。皆さんもご存知と思いますが、昼も夕も納豆売り切れという状況が続いていました。それもそ

のはず、スーパー開店1時間ほどで完売だったようです。

常時納豆を食べるぼくにとっては、まさかの異変にいかにか確保するかが問題だったのです。そこで、先の日曜日の開店時に4パックほど買ってきました。その直後の「あの放送は嘘だった」とのニュース。

いまさら納豆が健康に良い、と判ったわけでもないと思うのですが、「やせる」となると飛ぶように売れるんですね。

放送どおりに1日2パックをひたすら食していた人は、もう納豆を見るのも嫌になったのではないのでしょうか。

TVの影響はとても恐ろしいですね。嘘を放送するTV局の体質も問題ですが、とにかくあの異常事態が早く終わってぼくは一安心です。

では、また来週をお楽しみに。

=====

インドネシア雑感記

発行システム：『まぐまぐ!』 <http://www.mag2.com/>

配信中止はこちら <http://www.mag2.com/m/0000207699.html>

=====

インドネシア語入門講座 配信中

カテゴリ：語学・資格 その他の外国語 その他

配信：毎週金曜日

発行者ホームページ

<http://www.baronjp.com/>

=====

インドネシア雑感記 : 希多 いくと

Vol. 29 2007. 2. 2

インドネシアの自然、土地、食べ物、生活、社会などを、エッセイ風の雑感記として、メルマガにて紹介します。当国の理解に役立てれば幸いです。
配信は毎週金曜日に変更しました。

皆さん、こんばんは。今日は《社会編 Society 1》になります。
今回は初めての社会編、まずはインドネシア語のお話から始めましょう。

■ 29 インドネシア語の習得について

インドネシア語はマレー語を基盤としています。1945年独立時のスカルノ大統領により、標準語として全土で習得することが義務づけられました。

これにより、国内のどこに行っても、この標準語での会話が可能となっています。

広いインドネシアには数多くの民族、方言があることを考えると、これはとても素晴らしいことです。

国家には単一の言語が必要だし、その一言語でヨーロッパに匹敵（領海を含む）するほどの広大な国がまとまっているのです。

このインドネシア語は、海外出張の多いビジネスマンの間では、最も簡単に習得しやすい言語で通っています。

個人差・年齢差にもよりますが、約半年でほぼ生活に困らない以上の言葉を習得できるでしょう。

ばくの場合には、「話したいことをほぼ言えるのに3ヶ月」、これでは一方通

行ですから「相手の話がかなりわかるまでさらに3ヶ月」を要しました。

これは仕事を英語でこなしながらですから、朝から晩までインドネシア語につかるなら、1～2ヶ月で日常会話が習得できるのではないのでしょうか。

さて、インドネシア語の語順はほぼ英語と同じです。

ただ英語と決定的に違うのは、時制による動詞の変化がないこと、そして形容詞が後から名詞を修飾する（英語では形＋名）こと、この二つです。

中には、英語ほど厳密に語順を気にせず、単語を並べるだけで大まかな意味は通じる、という人もいます。

これは極端な例ですが、単語を並べるだけでは応用が利かないし、思ったことを自由に相手に伝えることはできません。

そこで、いろいろな応用会話を話すには、簡単な文法を習得するのが一番だと思います。

最初にやさしいことを強調しましたが、誤解のないように言えば正式なインドネシア語は結構難しいのです。

動詞の語幹に数種の接頭語や接尾語をつけて、自動詞・他動詞・使役・受身・名詞化などを図ります。

例えば、語根で datang(来る)は、men-datang(突然来る)、men-datangi(訪問する)、men-datang-kan(来させる)、pen-datang(外来者)、pen-datang-an(訪問)、ke-datang-an(到着)のように変化します。

この正式語は、新聞・ニュース・書籍などでは一般的ですし、また、演説好きなこの国の人は、集会やパーティのスピーチにも当然正式な言葉を使います。

「それじゃとても覚えられないよ」と初めからあきらめる方もいるでしょう。

しかし、ご心配には及びません。上記のような変化は日常会話ではほとんど使わないのです。

基本の語根（基本形）さえしっかり覚えておけば、簡単な会話はほとんどこなせます。

最近では、衛星放送が世界のどこでも映る時代となり、当国のテレビではな

く衛星放送（CNN、NHK等）を見る傾向が強くなりました。

ここインドネシアでも、95年半ばからNHKが放送開始となったのです。

初めて海外出張する若い技術者の方は、自然NHKなどを見るので、現地語に接する機会が激減しました。

そして、当事国の言葉をほとんど耳にすることもなく、言語習得が不可能な状況になりつつあります。これは、とても悲しく不幸なことですね。

滞在国の状況は、現地のテレビが一番詳しく放送しています。

NHKの海外放送は現地で製作していないので、遠く離れた日本の異常気象・事件などを、何度も繰り返して放送するだけです。

海外で仕事をするには現地の人とのコミュニケーションが大事だし、自分が今滞在している国がどういう状況なのか的確に判断しなければなりません。

そのためには、現地の人とその国の言葉で会話したり、現地のTVをある程度理解したりするのに言語の習得が必要になります。

ぼくの初めての出張には、日本で市販されている語学書を携行しましたが、役に立ったのは単語くらいで、例文が一切わかりませんでした。

というのも、基本的な文法をわかりやすく書いてある語学書が皆無だったからです。

現地で1ヶ月ほどたった頃に、現地人のパートナーがジャカルタで出版されているインドネシア語文法書（日本語）を買ってきました。

これがぼくの語学習得に決定的な影響を与えたのです。

とに角わかりやすいのです。「どう言葉を並べれば表現できるか」が的確にわかる簡単な文法書でした。

1章ごとに簡潔にまとめられたその文法書を、夜間に1ヶ月ほどで読破しました。これにより、日常会話にあまり不自由しなくなり、ちょっとした手紙も書けるようになったのです。

この経験により、文法というものは大事だなと強く感じました。

いまだに日本で入手できる語学書は、場面ごとの会話例がほとんどです。そ

れでは、研修などで初めてインドネシアに派遣される若い技術者の人たちの役に立ちません。

そこで、先の文法書を参考に「誰にでもわかりやすい語学文法書」を自分で作りたい、と思い始めたのです。当然ですが、インドネシアに旅行に出かける人の語学習得にも使いやすいはずです。

今夜間の時間のあるときに、懸命に編纂しているところです。(1997.7)

【後記】

上記の語学書は2005年に自費出版しましたが、現在三修社から刊行予定で編集中です。昨年大病したことや、つい最近知ったのですが、出版社の担当の方が昨年10月に辞めており、刊行が大幅に遅れています。

自費出版は現在販売を停止していますが、その簡易版として昨年9月からメルマガ(インドネシア語入門講座)を配信中です。興味のある方はぜひ下のURLをクリックしてみてください。

最近HPを大幅にアップデートしました。黒を基調にしたので最初は慣れないかもしれませんが、意外と写真が映えたりしていい具合です。

中でも語学講座の音声を開示したのは、初めての試みではないでしょうか。インドネシア語の学習に役立てていただければ幸いです。

音声ファイルのサイズが大きく今のHPでは容量不足なので、1GのHPを新たに併設しました。2つのHPを管理するのはなかなか大変そうです。

では、また来週をお楽しみに。

=====

インドネシア雑感記

発行システム：『まぐまぐ!』 <http://www.mag2.com/>

配信中止はこちら <http://www.mag2.com/m/0000207699.html>

=====

インドネシア語入門講座 配信中

カテゴリ：語学・資格 その他の外国語 その他

配信：毎週金曜日

発行者ホームページ

<http://www.baronjp.com/>

=====

インドネシアの自然、土地、食べ物、生活、社会などを、エッセイ風の雑感記として、メルマガにて紹介します。当国の理解に役立てれば幸いです。
配信は毎週金曜日に変更しました。

皆さん、こんばんは。
今日は《社会編 Society 2》、インドネシアの学校のお話です。

■30 小学校から大学までの教育

97年7月21日、朝の町にがぜん活気が戻ってきました。
ぼくらの宿舎の前に高等学校があります。約1ヶ月間の年度替りの長い休みが終わり、学生たちの新年度が始まったのです。
高校生ともなると自転車通学も数多く、中にはベチャ(シート付三輪自転車)で通学も珍しくありません。

インドネシアの学校制度は日本と同様6 3 3制です。
このうち義務教育は小学校6ヶ年で、日本と違うのは飛び級があること。すなわち、頭の良い子は1学年を飛び越えて進級することが可能です。
しかし、1学年も飛び越えると急に学習内容が難しくなり、結局元に戻ることもあるようです。

学生の朝はとても早い。早朝6時半頃が通学時間帯で、学校は7時に始まります。

小学校も当然同じですが、低学年では2時間ほど学習した後、9時頃にはもう自宅に帰ります。小学高学年でも昼前に帰宅します。

ちなみに、高校は午後3時ごろまで授業があります。

やはり、ここは暑い南国。エアコンなどもちろんない小学校では、朝の涼しい時間帯だけに学習するようです。

エアコンと言えば、日本の小学校にもありません（私立は別です）が、現地の日本人学校（小～中学校）では完備しています。

こちらでは小・中・高校ともに学生服着用です。

小学生の制服は、昔は上からカーキー・茶の半袖シャツ・半ズボンでしたが、近年では白・エンジともう1つのパターンの3種類があるようです。

曜日か何かの関係で、これら3種の通学服を使い分けているようですが、定かではありません。

小中学生の体格は、日本の同学年に比べてかなり小さい方になります。

年齢に換算すると、2～3年ほどの体格の差が感じられるのです。この差は食糧事情によるものなのか、一般に細身のやせた児童が多いようです。

時に丸々と太った子もいますが、華僑の子と一目でわかります。やはり貧富の違いでしょうか。

日本は飽食の時代となり、最近は小学生でも成人病が見られるようです。

太った身体にならないためには、小さい時からの食生活が大事になります。

インドネシアのように、そして戦前や戦後間もない頃の日本のように、最低限度の栄養は取るようにしながら、飽食と無縁の食事がいいのでしょうか。

さて、1995年度の就学率は小学校95%、中学校50%となっています。

教育費に余裕のない家庭では、中学生ともなると半数が仕事に出るようです。さらに、高校・大学就学率になるとそれぞれ28%、不明となります。

大学卒の学士はおそらく数%、だいが昔の日本同様に、社会的には非常に貴重な存在と思われます。

ちなみに、大学の学費は国立で年間40万Rp(約2万円、97年当時)私立で年間100万Rp(約5万円、同)程度になります。

この貴重な大学生の中から、さらに国費で日本などに来る留学生となると、ごくごく少数の超エリートになります。

私費留学はもちろんすべて家庭持ちですが、国費留学生は奨学金制度により食費を含む留学費用が一切かかりません。

そして、将来もこの奨学金を返す必要はないそうです。

大学に入るにはお金が必要ですから、裕福と賢さの中から選ばれたほんの一握りの学生が、アメリカや日本、その他の国々などに海外留学するのです。

そして、彼らには帰国後それなりの地位が待っているのでしょうかね。

【後記】

それにしても今年の冬は暖かいですね。昨年大病をした身には、とてもやさしい冬になります。

本当に今年は東京の初雪新記録になるのでしょうか。多摩市ではいちど雪がちらついたことがありました。東京は気象庁での記録ですから、世田谷あたりで舞っても駄目なのです。

今週火曜日に、三浦まで出かけてきました。とても暖かい4月のような気候で、この分だと今年の桜は早そうですね。

昨年は退院まもなくの頃で、桜を満喫していなかったのですが、今年は桜を充分楽しみたいと思います。

海外の出張は春の時期が多く、2年も3年も桜を見れないことが続いてしまったこともあります。

では、また来週をお楽しみに。

=====
インドネシア雑感記

発行システム：『まぐまぐ!』 <http://www.mag2.com/>

配信中止はこちら <http://www.mag2.com/m/0000207699.html>

=====

インドネシア語入門講座 配信中

カテゴリ：語学・資格 その他の外国語 その他

配信：毎週金曜日

発行者ホームページ

<http://www.baronjp.com/>

=====

Copyright © 2007 Baron, All Rights Reserved